

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 河渡 正史

学校住所 (岡本キャンパス) 高山市下岡本町2000-30 電話 0577-32-5320

(山田キャンパス) 高山市山田町711 電話 0577-33-1060

- 1 会議の名称 令和元年度 岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第1回)
- 2 会議の構成 委員 杉山 和宏 (株)高山電材 代表取締役
坂下 桂子 アトリエ リーベル (美容師)
辻 直司 岐阜県肉用牛協会 会長
垣根 真吾 岐阜県指導農業士
中川 久恵 自営 (靴販売業)
学校側 河渡 正史 校長
田屋 雅樹 副校長 (全日制山田キャンパス)
武田 理 副校長 (定時制・通信制)
野村 宏治 事務部長
大森 賢一 教頭 (全日制岡本キャンパス)
桐山 明宏 教頭 (全日制岡本キャンパス)
水野 泰孝 教頭 (全日制山田キャンパス)
奥田 寛 教頭 (定時制)
中田 和美 教頭 (通信制)
塚本 和幸 教諭 (全日制岡本キャンパス・教務主任)
富田 喜友 教諭 (全日制山田キャンパス・教務主任)
近藤 哲也 教諭 (全日制岡本キャンパス・生徒指導主事)
柳原 博之 教諭 (全日制山田キャンパス・生徒指導主事)
荒川 一弘 教諭 (全日制岡本キャンパス・進路指導主事)
田中 一幸 教諭 (全日制山田キャンパス・進路指導主事)
島田 正幸 教諭 (全日制山田キャンパス・農場長)
- 3 会議の目的 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 令和元年5月28日(火) 13:30~15:20
飛騨高山高等学校 山田キャンパス会議室
学校評議員4名(欠席1名)と学校側16名が出席
- 5 会議の概要 (進行 水野教頭)
開会の挨拶 (田屋副校長)
学校評議員の委嘱 (学校長)
自己紹介
授業参観 (山田キャンパス5時限目の授業参観)
学校説明 全般 (学校長)、全日制 岡本キャンパス (大森教頭)
全日制 山田キャンパス (水野教頭)、定時制 (奥田教頭)
通信制 (中田教頭)
授業参観の感想及び学校への意見・要望等
閉会挨拶 (武田副校長)

(1) 授業参観 山田キャンパス 第5限の授業（ぎふ総合型選択制）の参観

(2) 挨拶・学校説明

本校は平成17年に高山高校、斐太農林高校が統合して今年度で15年目になる。定時制、通信制を合わせて1,100名の生徒がおり、飛騨地区内の約1/4の生徒が本校に通っていることになる。生徒は、一生懸命に授業や部活動に取り組み、着実に成果をあげている。この5月には、各課程別に球技大会を実施したが、それぞれの良さを感じるものであった。我々としては、「飛騨の子どもは飛騨で育てるんだ」、「将来の飛騨を支えてくれるのは飛騨の子どもたちだ」という考えのもとで積極的に地域と関わり、飛騨の将来に必要な学校とすることを考えている。その成果の一つとして、各新聞社に報道された本校生徒の取り組みをまとめてある。その一部を紹介する。和牛甲子園で2連覇を達成した。これはただよい牛を育てるだけでなく、その育て方に関する研究発表をする能力も評価されている。また、園芸科学科では、草花専攻生が母の日のカーネーション市に取り組みんだり、本町商店街にベゴニアを鉢植えしたりすることで、地域とのかかわりを大切に街づくりに貢献させていただいている取り組みである。さらには、先週にかけて行われた全国高校総合体育大会の県予選では、優勝が柔道で1名、陸上で2名。ハンドボール部と陸上部4名が東海大会に出場することになった。また、通信制バトミントンのダブルスでも東海大会出場が決まり、全日制だけでなく通信制でも頑張っている。

教育方針としては「快活」「友愛」「創造」の校訓のもとで、心身ともに健やかでより豊かな人間性と生きる力を備えた生徒の育成を目指している。教育目標は「全日制」、「定時制」、「通信制」で一部表現を変えており、全日制では、社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身に付ける。「定時制」「通信制」では、社会人としての一般教養を身に付けるとしている。その具体的な指導方針としては、各課程、学科、教科を超えた連携による特色ある教育の推進。生徒との対話を深め共感的理解にたち、一人ひとりを大切にす教育。主体的に学び、考え、行動する生徒の育成。の3点を掲げ、活発で明るい学校、生徒に軸足を置いた学校を目指したい。

次に、教職員の働き方改革が問題になっている。岐阜県教育委員会では、教職員が心身ともに充実して児童生徒と向き合うことが学校教育の充実につながるとし、適切な労務管理と勤務の適正化のための改革を進めている。それを受け本校としては、全日制では8の日、ノー残業デー等の日は18時までには退勤する。学校代表電話は18時から翌7時30分までは留守番電話で対応する。また、部活動は、週に平日1日、休日1日の2日間を休養日とし、1年で105日の休養日を目安とする。そして、行事、会議等の見直しと精選を進めるほか、教員業務アシスタントによる業務支援も行っている。

最後に、農業科は来年度から、2学科群で4学科となる。緑の農学科群は園芸科学科と環境科学科。食の農学科群は動物科学科と食品科学科にする。定員は未定だが、これまでの3学科を4学科にするため、現在の本校における学びの領域が減ることはない。現中学3年生の受検では、こうした体制になっていくことをご承知おきいただきたい。

(3) 今年度の学校状況の説明

<全日制 岡本キャンパス> 大森教頭

岡本キャンパスは、女子生徒が2/3を占めており、85%の生徒が高山市出身である。進路状況は、7割が進学、3割が就職となっている。進学者のうち半分が4年制大学と短大、残りの半分が専門学校である。

学習指導については、アクティブラーニングやユニバーサルデザインの考え方を取り入れてより分かりやすい授業に取り組んでいる。生徒指導では、挨拶をしっかりとするなどコミュニケーション能力の向上を図っている。また、ボランティア精神が身に付いた生徒を育てていきたいと考えている。進路指導では、一人一人のキャリア教育を進めて、将来に向かって主体的に努力できるよ

うに指導している。普通科は基礎・基本の徹底と丁寧な個別指導に努めて取り組んでいる。今の2年生からは、入試が大きく変革されるためその対応も進めている。商業科は、検定取得を柱にしているが、実学として活かせるように指導している。生活文化科では、毎年テーマを決めて勉強しているが、今年は各国の食文化をテーマに取り組んでいる。

岡本キャンパスでの課題としては、主体的・対話的に授業に取り組むこと。自発的な家庭学習の充実を進めることが挙げられる。また、さらに進学実績の向上や上級入学の向上も充実させていかなければならないと考える。

<全日制 山田キャンパス> 水野教頭

山田キャンパスは、農業のスペシャリストを育成することが大きな目標である。単に机上で勉強するだけでなく、実験・実習など実践をともなった学習を通して力を付けさせている。

多様な生徒が学んでいるが、社会で求められるこの地域をしっかりと担っていく子どもたちを育てる部分において、基礎学力や基本的な生活習慣をきちんと付けさせることが大きな課題になっている。生徒は生き物を扱い、感性を磨きながら着実に力をつけている。しかし、生徒たちは、自分たちの成長について気付かずにいる。自分がどんな所でどんな風に力をつけたのか振り返らせ自己肯定感を持たせることが大切であると感じている。

園芸科学科においては、今、GAP取得に力を入れています。GAP取得の実践をしながら、農業だけでなく生活の中の課題解決に結び付けられる力をつけさせたい。自営者育成において地域から大きな期待をいただく中、地域の方々にも様々な場面で協力をいただき、地域への貢献を意識した学習に取り組む機会をいただいている。

環境科学科は、近年定員に満たない状況が続いている。これは大きな課題であるが、昨年度は2級土木施工管理士の国家試験で91%の合格率を出している。全国平均が5割程度の難関資格である。山田キャンパスでは、昨年度国公立大学に2名、公務員に7名合格しているが、その中心は環境科学科である。土木・森林についてうまくコマースができていないが、地域にしっかりと発信していきたい。斐太高校などの進学校へ行かなくても、国公立大学への進学や公務員になることが可能であることを伝えたい。

生物生産科については、全国の和牛甲子園で2連覇を達成した。地域の誇りでもあり、生徒たちには何よりも自信となっている。

生徒には、基礎学力をしっかりと身に付けさせ、この地域について様々な角度から観察・分析し、その改善に向けた主体的な行動ができる生徒づくりを目指していく。

<定時制> 奥田教頭

本校教員の様子を見ていると特別支援学校に勝るとも劣らない丁寧な指導をしている。夜になると小さな職員室であるが、14名の教員が生徒について色々考え議論している。生徒たちも幸せな状況にあると思っている。今春卒業した卒業生の状況は、15名のうち12名が就労、1名が進学、2名が未定という状況である。在校生は、70%の生徒がアルバイトや何らかの就労をしている状況である。

学習指導では、社会人として必要な一般教養を身に付けさせることを目標にし、授業は全てプリント教材を活用して展開している。教員が単独で行っているのは、理科の2コマのみで、ほとんどが習熟度別の分割授業やチームティーチングの形態である。現在94名が在籍しており、1学年が約20名前後である。そのクラスを2名の教員で教えるため10名程度に1人の教員が付いていることになり、かなりきめ細かな指導できているのではなかと考えている。特別支援教育支援員には、特に文字を読み取ることが苦手な生徒の後ろに付いてもらい、サゼスションを与えながら授業を進めている。生徒指導は、様々なバックグラウンドを抱えて入学してきている生徒が多いため、一般的な生徒指導は当てはまらない。服装規定もなく、髪も自由である。こうした外圧を低くし、まずは登校することを第一目標としている。具体的には、多面的な生徒理解に努め、あらゆる場面で生徒の良さ認めて個性を尊重する。この言葉に尽きると思うが、生徒理解を念頭において生徒指導を行っている。進路指導は、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせ、社会的自立を目指している。今年度から新しい取り組みとして、学校設定科目「ジョブコミュニケーション」を始めている。定時制は17時45分から授業が始まるが、ジョブコミュニケーションは14

時から実施している。現在 10 名程度の生徒であるが、若者サポートステーションの方や臨床心理士等を講師とし、より良い自分の将来を探るための授業を行っている。

課題は、生徒の出口だと考えている。今後は、インターンシップの充実に力を注ぎ指導していきたい。

<通信制> 中田教頭

今年度も通信制は、自己肯定観を深めることを第一に考えながら「気長・丁寧・親切」をモットーに、卒業後は地域社会人として活躍できる生徒を育てたい。通信制には様々な生徒が入学してくる。非常に学力の高い生徒もいれば、小学校高学年から不登校になった生徒もおり、6 割以上が不登校を経験している。中学卒業時にはどの高校も受けることすらできず、3 年間引きこもっていた生徒が今年の春に入学してきた。その生徒は無事進級することができた。今年も、5 年間引きこもりだった 20 歳生徒が、「進学し高校の卒業資格を手に入れたい」といって入学してきた。その生徒も順調に学校生活を送っている。先日の球技大会でも、皆と一緒にうまくやっている。このように通信制では、人それぞれのタイミングはあるにしろ、「高校に入りたい」「学校生活をやり直したい」と思う人に、門を広く開けて受け入れたいと考えている。

教育目標では、社会人としての一般教養を身に付けながら地域社会に出ていける生徒を育てたいと考えている。学習指導は、個別指導を充実させており、日曜日のスクーリングだけでなく、平日にも 1 対 1 の家庭教師並みの個別指導も実施している。個に応じた支援の充実を図り、特別な配慮を有する生徒に対しては、協議の上、最良の方法で支援ができないかを常に考え、配慮に努めている。生徒指導は、自己肯定観を高めるために学校行事にも力を入れている。5 月 18 日、19 日には乗鞍宿泊研修があり、3 割強の生徒が参加した。球技大会にも 7 割程度の生徒が参加している。6 割の生徒が不登校経験者だということを考えると、こうした行事も大切にしていきたい。進路指導は、通信制の生徒には学力が高く四年制大学を希望する者いる。昨年度は 2 名がセンター試験を受験している。全定通が併置されている利を生かし、全日制の教員にも助けをもらいながら進学指導を行ったり、ハローワークと連携を取ったりしながら、進路指導の充実を図っている。

通信制の課題としては、出口の部分で正規の就労ができるよう如何に力をつけさせるかが、大きな課題になっている。

(4) 授業参観の感想および学校への要望・意見等

<意見 1>

キャンパスを越えて選択授業が行われていることは素晴らしい。

授業では、意見交換をやっていたが、人に分かりやすいように話をする訓練は良いことだと思う。私の時代にはなかった授業で、社会に出ても自分の意見を言える人になるためにも、良い授業だと思う。

我慢してやることも大切だが、色々なことをやりながら自分に合ったことを見つけることも大切だと思っている。こうした選択授業は良い取り組みだと思う。

<意見 2>

和牛甲子園の 2 連覇は素晴らしい。私はその会場で生徒の姿を見ていたが、これまでの取り組みに自信をもって発表する姿には、貫禄を感じた。皆にすごいと言われ祝福や喜びの言葉をもらうと真の自信がつき、高校生活がより充実することで立派な大人になると思う。

学校長の「飛驒の子どもは飛驒で育てる」という言葉は本当に大切に、今後も、地元で生徒の様子を見てもらう様々な発表の場を設け、多くの方に理解と協力を得ながら進めてほしい。

<意見 3>

我が家で働く研修生は、工業高校を事情により中退して定時制に通った。その後、農業大学校に入ることができ、今はうちで働いてもらっている。最初は何もできなくても、1 つ 2 つとやって理解しながら、色んなことにチャレンジすることが大切。この子は 2 年後に新規就農するが、

我々地域も学校と一緒に頑張って頑張る覚悟である。学校にはいくらでも協力をするので、より多くの後継者を育ててもらいたい。

<意見4>

専門高校は、様々なことにチャレンジでき、良い学校だと思った。もったいないのは、宣伝が足りないのか、普通科へ行った方が良いと思っている人が多いことだ。こうした環境を、より多くの人に知ってもらい、多くの生徒に備えてやりたい。

<意見5>

以前は希望する子が少ないと言われていたが、最近はそうでもない。地域の保護者や生徒に聞くと大変良い学校だと聞くので、これまで紹介のあった取り組みをどんどん流せば良いのではないかな。

<学校側>

来年からの学科改編も含め、中学生や地域へ積極的に出向き丁寧な宣伝に努めます。

<意見6>

将来のことが決められないから普通科高校に行くのではないかな。この学校を卒業するとこんなに素晴らしいことがあるということ进行宣传するしかないと思う。

<学校側>

進路先も含め、卒業生の活躍も紹介していきます。

■学校評価アンケートについて説明

<水野教頭>

学校評価アンケートを、7月に実施する。生徒、保護者のほか学校評議員にもアンケートのお願いをする。

7月に、第1回の評議員会のまとめと一緒にそのアンケートを送付するのでご協力願いたい。

6 会議のまとめ及び閉会

本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。学校で十分検討したいと考えております。

評議員の皆様には7月に学校評価アンケートをお願いすることになっています。ご協力をお願いします。

第2回は1月25日（金）の学習成果発表会の日に開催する予定です。